



鮫川村の「さ」の字を図案化したもので、村民の融和と団結を表し、明るく豊かな村づくりに着実に進む鮫川村を象徴したものです。

村民憲章 昭和62年3月制定

- 1.自然に親しみ、環境を整え、美しく住みよい村をつくりましょう。
- 1.教養を高め、伝統を重んじ、文化の香り高い村をつくりましょう。
- 1.健康で働き、さまりを守り、心のふれあう福祉の村をつくりましょう。
- 1.資源を活かし、創意と努力を重ね、豊かな村をつくりましょう。
- 1.協同と連帯の意識を深め、希望と活力にみちた村をつくりましょう。

地勢

鮫川村は福島県の南端、東白川郡の北東部に位置し、東は古殿町といわき市に接し、西は棚倉町と浅川町に、南は塙町と茨城県北茨城市に、北は石川町に接しています。本村は阿武隈高原南部の頂上部にあるため、山脈丘陵が連なり、村の大部分は400mから650mの範囲にあります。耕地は山峽に開け、丘陵部の緩傾斜地の多くは、採草放牧地に利用されています。



# さめがわ新時代をめざして。

鮫川村長 芳賀文雄

阿武隈の山並み、青い空、清らかな水の流れ、美しい自然に恵まれている鮫川村は、明治22年4月に旧7か村が合併して誕生しました。

本村は、福島県の南端、阿武隈高原の頂上部に位置し、縄文・弥生時代から歴史と伝統にはぐまれ、時代の変遷とともに幾多の困難を乗り越えながら着実に発展してまいりました。

さらに、平成8年度には村民皆様のご理解とご協力により、村税全村完納継続40年という輝かしい記録を達成することができました。

しかしながら、現在の社会経済情勢は、国内外とも高度情報化の一途をたどり、国際化、技術革新などの目まぐるしい変化は、産業の構造を変えようとしています。本村の基幹産業である農林業もまた、生産価格の低迷や生産調整、市場開放などを受け、後継者不足と高齢化が進行するなど誠に厳しい情勢にあります。

これらの潮流変化をふまえながら、21世紀に向かって「住んでみたいむら、住みつけたいむらの創造」を基本理念として、村民の英知と創意を結集し、豊かな自然と調和した産業の振興、生活環境の整備や教育の充実など、住民福祉の向上をめざして広範な施策を積極的に展開し、「ほっと心が安らぐむらづくり」を進めたいと考えております。

本誌は、こうした鮫川村の姿を紹介したのですが、本村をご理解いただく一助となれば幸いです。

